

令和3年7月30日

報道各社御中

国立大学法人山梨大学

「山梨フードバレー構想」研究成果発表のご案内（依頼）

謹啓 猛暑の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は報道を通して、様々な地域活性化活動にご協力を賜り御礼申し上げます。

さて、これまで検討を重ねてきました「山梨フードバレー構想」（別紙をご参照ください）に係る研究成果がまとまりましたので、山梨県の関係各所にご報告する運びとなりました。

つきましては、下記のとおり記者発表をいたしたく、ご案内申し上げます。

謹白

記

1. 発表日時 令和3年8月6日（金） 10:00～ 記者発表
2. 会場 山梨大学甲府キャンパス T1号館8階804会議室
3. 内容 『山梨フードバレー構想』
～農・食を通じた山梨経済活性化！～
4. 出席者 山梨大学工学部土木環境工学科、
大学院附属地域防災・マネジメント研究センター
教授 武藤 慎一
早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授 佐々木邦明
東京農業大学 客員教授 藤巻 眞史
山梨大学大学院医工農学総合教育部 修士1年 高井 彬名

以上

<研究についての問い合わせ先>

国立大学法人山梨大学
工学部土木環境工学科
大学院附属地域防災・マネジメント研究センター
教授 武藤 慎一（ムトウ シンイチ）
TEL: 055-220-8599 e-mail: smutoh@yamanashi.ac.jp

<広報についての問い合わせ先>

山梨大学総務部総務課広報企画室
TEL: 055-220-8005, 8006 FAX: 055-220-8799
E-mail: koho@yamanashi.ac.jp

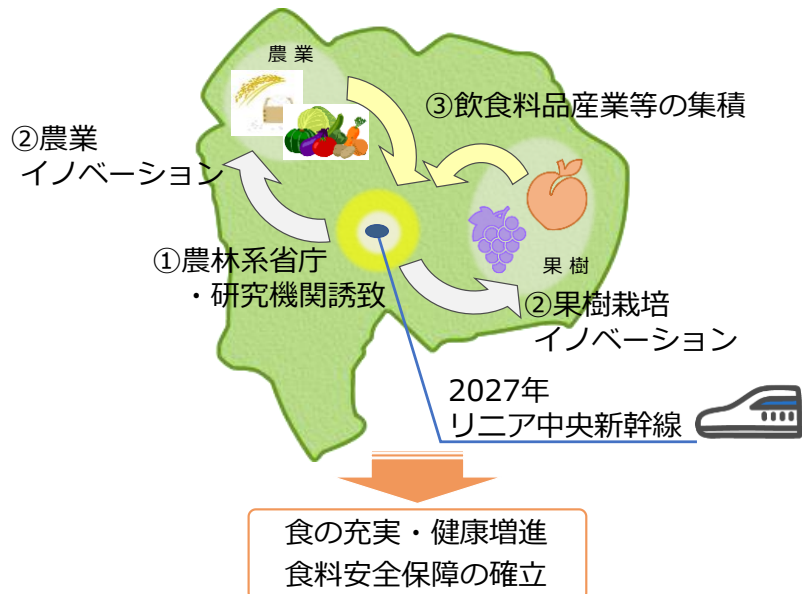
「山梨フードバレー構想」とは

「フードバレー構想」は1990年代のオランダで誕生し、オランダのワーヘニンゲンには現在、農と食に関する科学とビジネスの一大集積拠点である「フードバレー」が形成されています。

山梨県甲府盆地は、日照時間が長く、寒暖差も大きく、多様な標高を有する地形であることから、農業や果樹栽培に適しているとされています。また、2027年にはリニア中央新幹線が開業し、山梨の交通利便性は飛躍的に向上します。この好機をいかし、山梨の地に農だけでなく食も含めた科学とビジネスの拠点を実現させようとするものが「山梨フードバレー構想」です。

当構想では、①農林系省庁・研究機関の誘致（科学の拠点）⇒②農業、果樹栽培におけるイノベーションの創造⇒③飲食料品産業等の集積（ビジネスの拠点）のようにして「山梨フードバレー」を実現させようと考えています。今回の発表記者会見では、「山梨フードバレー構想初期計画」の経済効果計測結果もご報告いたします。

「山梨フードバレー」が実現すれば、山梨県民だけでなく、交流や交易を通じて周辺都県民も食の充実による効果を享受します。さらに食の充実は、健康増進につながります。それに加え、農と食に係る自給率が向上すれば、食料安全保障の確立にもつながります。この「山梨フードバレー」が全国基準となり、全国各地に広がっていくよう各方面の関係者にご参加いただき実現に向けて取り組んでいきます。



「山梨フードバレー構想」研究成果発表次第

1. 発表日時 令和3年8月6日（金） 10:00～ 記者発表
2. 会場 山梨大学甲府キャンパス T1号館8階804会議室
3. 内容 『山梨フードバレー構想』
～農・食を通じた山梨経済活性化！～
4. 出席者 山梨大学工学部土木環境工学科、
大学院附属地域防災・マネジメント研究センター
教授 武藤 慎一
早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 教授 佐々木邦明
東京農業大学 客員教授 藤巻 眞史
山梨大学大学院医工農学総合教育部 修士1年 高井 彬名
5. 次第 ①『山梨フードバレー構想』検討の経緯について
東京農業大学 藤巻 眞史
②『山梨フードバレー構想』の概要と
その実現による経済効果 山梨大学 武藤 慎一
③『山梨フードバレー構想』の今後の展開について
早稲田大学 佐々木邦明

以上

「山梨フードバレー構想」研究成果発表

発表日時 令和3年8月6日(金) 10:00～ 記者発表

会場 山梨大学甲府キャンパス T1号館8階804会議室
(以下の地図をご参照ください)

